

---

# 一刀一閃振り返らず

マナフィニロ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一刀一閃振り返らず

### 【Nコード】

N5078Y

### 【作者名】

マナフィニロ

### 【あらすじ】

世界の海、空に怪物が現れだして数百年これは一人の少年が武器と人の姿をとる武姫を扱い武姫を扱うセントルイス学院に入学するまでのお話。

## 譲れぬ誓い

突然だが、この世界には武姫ぶきと呼ばれる人がいる。（武姫のことを人と考えないやつらもいるが・・・）

武姫とはこの世界の武器職人達が作った武器に宿る生命だ、だから当然その数も少ない。なぜそんな話をするのかって？

それは簡単俺が武姫を扱う姫装者きようしやだからだ。

「・・・！！、・・・様！！、主様！！聞いてますか？」

美少女コンテストなるものが開かれれば間違いなく大和撫子部門一位を取れる容姿をした着

物姿の少女が白髪しろがみの少年に向かって声をかけている。

「ああ聞いているぞ？少し意識がイッてたが。」答える少年

それに対して隣を歩く少女が戸惑いを浮かべて聞く

「一式炒ちやうつてた？お料理のお話ですか主様」

「悪い、なんでもない（こいつは少しでも下品な表現になるとだめだったな）」

「そうですか？聞いていたならばしてください主様」少女が潤んだ瞳で囁く

「腰にさせつて?」

その二人の横を驚愕の面持ちで横切るおばあさん

「それは無理だつて」

その答えが不満なのか少女は落胆したようにつぶやきだす「私は主様に要らない子、ワタクシワヌシサマニ炒らない・・・」  
壊れかけていた

「おい!秋雨?」アキサメ焦った少年の肩に手が掛けられる

「兄ちゃん貰つておやり」おばあさんだった。片手が卑猥な形を作っている

「ちげえよ!そつちじゃねーよ」年配者にタメの突っ込みを入れる少年

「主様、恥ずかしがらなくてもノノ私痛いのですし」答える少女

「何でお前が答えんだ秋雨さつき俺がさつき思つた下品云々の気持ち返しを返せ」

「何だ兄ちゃんもやる気だつたんかいそりゃこんな体型の良い着物美人が相手じゃね」相変わらず卑猥な手をやめないババアそれどころか今度は両手を使っている

「そんな気持ちはない」

「ないんですか？これぼっちも？」両手を大きく広げる悲しそうな  
秋雨

「はえ？でもあんた下品云々って」中学生みたいなことを言い出す  
ババア

「これぼっちもって割にはでかいなお前、おれも男だからなあるにはあるが・・・（ババアは無視しよう）」

「あるんですか！ど、どうぞ！」頬を染め着物の襟に手をかける秋雨に口笛を吹いて煽るババア

「やめろ！」叫ぶ少年はババアに事情を説明することに決めた。

「ばあさん事情を説明するから口笛をやめろその手もだ。秋雨も落ち着け」

「説明もなにもヘタレ男のいいわけかい？苦労するねあんた」卑猥な手をやめ秋雨に声をかけるババア

「いえ主様はヘタレじゃありません！！むしろカツコよくて・・・」

「こないいい子、手放すんじゃないよあんた」ちよと決めて言ってくるババア

「言われなくてもわかってるよ。とりあえず説明するぞ？」

「はいはいその前に自己紹介といこうかね。私は新田梅<sup>にったうめ</sup>だ」

「俺は睦時雨姫装者だこつちのは天秋雨日本刀の武姫」

「誰よりもやさしくて……」さつきから時雨をほめ続ける秋雨

「そういうことかい」納得した様子のばあさん「最近はやッテル姫装者と武姫は多いからあんたらもやつちまいなさい」

「だからちげえよ。腰に刀にして差しつてくれって意味だったんだよ。」先ほどより鋭い視線で睨む少年「わかつとる。冗談じゃよ」

「それにしてもばあさん驚かないんだな」

「そりゃワシみたいに歳とりやいくら武姫が希少でも一人や二人くらい見るわ」

「そうか、ばあさんとの話も楽しそうだがあんたのせいで時間がなくなつたからな急ぐんだじゃあな（あやしいばあさんだな）いくぞ秋雨」

「刀を振るう時の主様なんて……はえ？あ、はい。おばあさんごきげんよう」

「ごきげんようお嬢ちゃん。最後にひとつ時雨やなぜお嬢ちゃんを差さんのじゃ？」

「ん？決まってるだろ武姫は武器である前に人だからだよ」

「そうか、おかしいことを聞いたな。今度こそさらばじゃ」

「ああ、さよなら」

「ふふ」微笑む秋雨

「何がおかしいんだ？」

「やっぱり時雨様はやさしいですね」

「そんなことねーよ。時雨様って？主様じゃ？」

「話そらさないでください。どこがやさしいかというとですね」

「別にそらしてねえよ」

「そうですかでどこがというと、主様が行くぞって仰ってるのに私が歩き出してからあるきだすところです。」

「意味わからんぞ？人が歩いてから自分も歩き出すのなんて普通だろ」

「やさしいか。少なくとも私は生きてきた中で武姫を迷いなく人と呼ぶ姫装者なんて見たことがないよ」仲良く去っていく二人を見送る梅であった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5078y/>

---

一刀一閃振り返らず

2011年11月17日20時25分発行